

出西地区では「健康・スポーツ」「文化芸術」をはじめとして子どもから高齢者まで趣味や生きがい、健康づくりのためにグループや各種団体ににより多様な活動が行われています。

○承認を受けるための4つの要件○
 地域と密接に連携 地域活動に協力
 定期的な活動 地域住民に広くメンバーを募集

今回は、令和5年10月に発足された混声合唱「ねこやなぎ」(代表:高木 瑞美子さん)を紹介いたします。
 ねこやなぎの活動は、合唱の練習を月1~2回行われます。活動人数は、現在13人です。コミセンで開催するふれあいサロンにおいて年1回定期コンサートを開催されます。また、高齢者福祉施設や地域サロン等へ、訪問コンサートに出かけておられます。随時、会員を募集中です。

去る12月11日(木)には、ふれあいサロン出西まめがが一番の会でコンサートを開催。美しい歌声が会場いっぱいに広がるすてきなコンサートでした。

なお、この高齢者サロン事業は、赤い羽根共同募金・出雲市社会福祉協議会の助成金を受けて行われています。



ねこやなぎコンサート

中学生日記

寄稿: 斐川西中学校3年生 仲本真凛さん

高齢者の笑顔あふれる出西

ふれあいサロン出西まめがが一番の会。この日はグループごとにトランプ遊びをしました(11月8日)

祝 表彰おめでとうございます

令和7年度島根県各種功労者表彰(R7年12月1日)
 斐川音訳ボランティアグループ
 トウインクル(代表 津戸 園枝)様
 市の広報誌や社協だより、利用者が希望する図書等を声で伝える音訳活動や、養護(盲)老人ホームかなび園での対面朗読に尽力されています。

コミュニティセンター使用料改定についてのお知らせ

令和8年4月1日からコミュニティセンター施設使用料が以下のように改定されます。

個人や私的グループ、事業所や事業組合などが限られた目的のために使用する場合は、市外に住所がある方が使用する場合は、使用料が必要です。

部屋名	現行使用料(円/時間)	改定後使用料(円/時間)	冷暖房使用料(改定後)(円/時間)
集会室	2,540円	3,800円	1,140円
研修室3	300円	400円	120円
実習室	500円	700円	210円
研修室(2部室)	500円	700円	210円
研修室1	300円	400円	120円
研修室2	500円	700円	210円

※冷暖房を使用した場合は、従来どおり使用料の3割相当額を加算します。

新しい民生委員児童委員が決まりました

氏名(敬称略)	担当地区
多々納 秀子	下出西1~5

寄付御礼

○香典返し 金一封(届出順)
 出西地区自治協会へ R8.3.11 現在
 遠藤 稔 様(神立1)

○寄贈
 黒田 邦宏 様(図書)
 高橋 孝治 様(図書)
 高橋 政江 様(アクリルたわし)
 ありがとうございます。

・中島 春正 様(除草剤散布)
 ・運営委員の皆様(館内清掃ほか)
 ・株式会社友和建設 様(屋外スピーカー撤去)
 ・福岡商事株式会社 様(玄関扉修理)
 ありがとうございます。

編集後記

○「高齢者の笑顔あふれる出西」をテーマに、ふれあいサロンや、高齢者交流会の様子を紹介しました。地域の皆さんの笑顔の輪が広がっています。
 ○今後とも、誌面を充実させるため「出西トピックス」などへの情報をお寄せください。お待ちしております。
 (スタッフ一同)

地域の高齢者との交流会。第1部の健康歌謡教室では、音楽に合わせて手足を動かしました。(12月12日) ※4ページにも掲載

出西地区の高齢化率は現在 25.06%です。高齢社会が進む中、高齢者の交流の場が広がっています。
 市や地区社会福祉協議会の支援を受け、地域の小サロン活動が活発に行われているほか、出西コミュニティセンターを会場に開催される「出西まめがが一番の会」も、会員数が増えてきています。「住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指して」をモットーに世代間交流、行政の出前講座なども活用しながら様々なサロン活動を展開中です。
 また、去る12月12日(金)に、出西地区社会福祉協議会総合支援事業「地域の高齢者との交流会」がコミュニティセンターを会場に開催され、約50人の参加者でにぎわいました。(主催:斐川町身障者協会出西支部 永戸 富天代表)
 今後も、誰もが笑顔で健康に暮らせる地域づくりを目指していきましょう。

今号の掲載内容

高齢者の笑顔あふれる出西.....1
 はばたけ出西の子どもたち.....2~3
 出西トピックス、協賛事業の紹介.....4
 第21回出西歴史講座、リレーエッセイ.....5
 新・出西の歴史探訪②.....6
 出西☆きりり③「陰山 洋」.....7
 活動グループ団体紹介④.....8
 4コママンガ「中学生日記」ほか

はばたけ出西の子どもたち

小学生、コミセンで開催の事業にフォーカス

西野小学校平和学習(11月21日)。地域の語り部たちから戦時中の体験を聞く子どもたち

西野小学校普通遊び交流会(12月2日)地域の方々と普通遊び交流会で、あやとり・竹とんぼ・けん玉などをする子どもたち

キャメロン先生による絵本の読み聞かせがありました(10月の子育てサロン)

出西子育てサロン12月はサンタさんからクリスマスプレゼント♪

サンタさんと記念撮影

出西☆きりり

県内外で活躍中の出西にゆかりのある人を紹介していきます。

第3回

陰山 洋さん

京都大学大学院 工学研究科 化学理工学専攻・教授

昭和44(1969)年生まれ・氷室出身

欧米や東アジアなど世界各国の研究者ら250人が集まり新材料の開発やエネルギー問題の解決をテーマに議論する「固体化学国際シンポジウム」が去る12月1日から5日間、松江市のくにびきメッセで開催。このシンポジウムの議長を務められたのが、氷室出身の陰山洋さんです。

陰山さんは、西野小学校、斐川西中学校、出雲高等学校、京都大学を卒業され、現在、京都大学大学院の教授としてご活躍中です。

このたび、陰山さんに「コミセンからの質問」に答えていただきました。

子どもの頃の出西の思い出は・・・?

近所には同級生をはじめ、年齢の近い友だちがたくさんいて、とにかく毎日よく遊んでいました。野球、サッカー、体操、川や山、冬の田んぼ、神社など、思いつく場所すべてが遊び場でした。日が暮れるまで外で遊び続けた記憶があります。今振り返ると、身の回りのすべてが豊かな学びと経験の場だったように思います。

子どもの頃の将来の夢は・・・?

子どもの頃、「これになりたい」という明確な夢は時にありませんでした。当時は今ほど情報もなく、科学者や研究者の姿を具体的に思い描くこともできませんでした。高校生になって京都大学を意識するようにはなりましたが、それでも研究の世界が全く見えていませんでした。大学4年生に研究室に所属して実際に研究を始めて知ったのは、研究は一人で黙々と進めるものではなく、仲間と議論し、協力しながら進めるものだというこ

とです。子どもの頃に、みんなでわいわい遊んだ経験が、今の研究スタイルにもつながっているように感じています。

京都大学工学研究科教授としての苦勞とやりがいは・・・?

現在、京都大学の陰山研究室には40~50名ほどが所属しており、そのうち3割はフランスやイギリスなど海外からの学生・研究者です。個性の異なる人たちと試行錯誤を重ねながら新しい材料を発見し、そこから新しい学問を作っていくことは、非常にやりがいのある仕事です。学生一人ひとりの個性に向き合う指導には苦勞もありますが、彼らが成長し、次の世代の研究者として羽ばたいていく姿を見ることは、何よりの喜びです。また、大きな国際プロジェクトも進行しており、昨年はフランスの2大学に新たなラボも立ちあがりました。地球温暖化の解決につながる新しい材料の開発に、世界中の仲間とともに取り組んでいます。

ふるさとへの思いを一言・・・。

2025年の神在月の時期に、島根で固体化学の国際会議(ISSSC 2025)を開催しました。日本酒(発祥の地)、たたら製鉄、荒神谷遺跡、石見神楽、出雲大社、どじょうすくい踊りなど、出雲の魅力の世界の研究者に知ってもらおう機会となりました。外国人は京都のことはよく知っていても、出雲を全く知らない方が多く、皆さん出雲文化を知って大変喜んでおられました。世界の情勢が大きく変化する今だからこそ、大国主命の「人と人を結ぶ」教えは、世界の人々が心に留めるべきものだと思います。以下のホームページ、X(旧Twitter)、インスタグラムでも、研究や活動に関する情報を発信しています。

※固体化学は、固体物質の合成や構造を研究する分野。固体物質には、リニアモーターカーやMRIに利用される超伝導体をはじめ、半導体に使われるセラミックスなどがあり、エネルギー問題の解決に貢献する学問分野として注目されている。

新・出西の歴史探訪②

石ぶみが伝える「明治6年酉年の大水」の教訓

酉年の大水、求院切れ

出西地区には、災害など苦難の歴史を刻んだ数々の石ぶみ(石碑)があります。人々は、先人が残したこの地の恵みに感謝しつつ、石ぶみを崇め続け、災害などの教訓を今に語り伝えています。その一つが「明治6年酉年の水害供養塔」です。

明治6年酉年の水害供養塔

明治6年(1873)は、前年正月の61年ぶりの大雪、2月の浜田地震、そして地租改正に伴う騒擾事件など民情が極めて不安な中で、この大洪水が追い打ちをかけました。

この年の夏は、雨乞い行事が行われたほどのひどい日照り続きでしたが、8月29日から30日にかけて稀にみる豪雨となりました。斐伊川の求院の堤防が決壊し、「酉年の大水」、「求院切れ」とも称される大惨事を引き起こしました。天保7年(1836)に斐伊川の洪水対策として新川が開削されてから初めて襲った大災害となりました。

特に求院、出西両村の被害は甚大で、求院村では光栄寺など建物家屋の流失が42戸、死者は65人、出西村では7戸が流失し、9人が亡くなった。『斐伊川史』(長瀬定市編)には、「求院村は全村流出」「斐伊川本流の堤防でその原型を残すものは稀なる状態を呈した」と表現されていました。

昭和25年に発刊された『斐伊川史』。斐伊川の洪水の記録等が克明に記録されている

剣崎の堤防は約545畝(300間)決壊し、浸水期間は実に50日にも及びました。

復興をリードした戸長・池田武五郎

復旧の先頭に立ったのが池田武五郎です。明治5年(1872)に府県下の行政組織として区制が敷かれ、求院、出西を含めた11カ村を束ねた第50区の戸長を務めました。

武五郎は、今日のような災害復旧の仕組みが整っていない中、自ら耕地流失に遭いながらも、人心を集

めて救助、水防に全身全霊で打ち込み、翌年も連続で襲った大雨被害も最小限にとどめました。

人々も、堤防復旧工事で日銭を得ながら、流土砂を運んで耕地を復旧し、懸命に生活再建に立ち向かいました。一家の大黒柱を失った家も多く、跡継ぎを他家に求めるなど懸命に家を守っていました。

復興の象徴「常松家住宅」

水害からの復興の象徴といえる建造物があります。斐伊川の土手沿いにある茅葺きの大きな住宅、常松家です。この地で庄屋や村長を務めた名家です。災害の翌年、明治7年に再建されました。木造平屋建て箱棟の主屋にL字型につながった離れや茅葺きの大屋根と防風林の組み合わせが、出雲平野の伝統的な民家形式をよく残していると高く評価され、平成31年3月に国登録有形文化財となりました。

「明治6年酉年の水害供養塔」

「明治6年酉年の水害供養塔」は、当初、求院の土手に建立されましたが、堤防工事等によって今は出西剣崎、南神立橋近くの路傍に移されています。黒い自然石に「南無阿弥陀仏」と彫られ、右側面に「明治六年」の年号が読み取れます。篆刻(てんこく)は当時の戸長である後藤喜左衛門です。

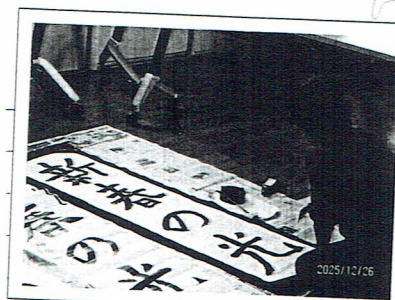
毎年8月29日、塔の前で「流れ仏さん」供養の法要が営まれ、亡くなられた方々の御霊に手を合わせてきました。令和4年には150回忌法要が営まれました。

流れ仏さんを供養し、人々の安寧を祈り続けるこの供養塔を、この地の防災の象徴として末永く地域に伝え、残していきたいと願って止みません。

【参考文献】『斐伊川史』(長瀬定市編) (文責:高橋孝治)



令和4年に斎行された150回忌法要



コミセンで書き初めをしよう! (12月25日と1月6日に開催) 一人ひとりが集中して書き初めをしました



まな板の上で七草を刻んでおかゆにいれました



七草がゆを食べる会(1月10日)コミセン周辺に七草を摘みに出かけました



まな板の上で七草を刻んでおかゆにいれました



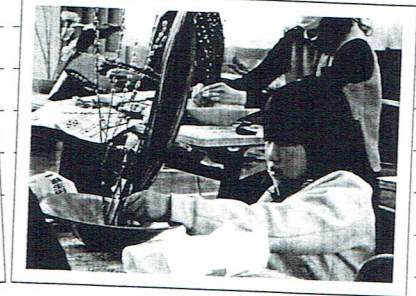
茶道教室(1月17日) この日は初釜。講師の山田博子先生にご指導いただきながら、順番にお点前を披露しました



まな板の上で七草を刻んでおかゆにいれました



生け花教室(2月14日) 講師の山田博子先生のご指導による小学生生け花教室。中学生や保護者の参加も可能です



まな板の上で七草を刻んでおかゆにいれました

出西トピックス

出西に新たな医院が誕生

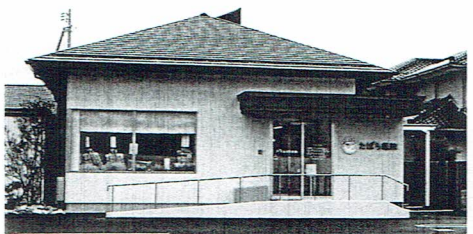
地域のかかりつけ医として地域に愛された樋野医院(神水地区)が、一身上の都合で、令和6年12月に閉院され、その跡地に、令和8年3月5日「たばら医院」が開院となりました。

院長は、田原英樹医師。島根医科大学出身で、島根大学、麻生飯塚病院、出雲市民病院で勤務され、出雲徳洲会病院院長を務められた、外科学会専門医、消化器外科専門医、プライマリ・ケア連合学会認定指導医です。

プライマリ・ケアとは、患者の健康問題に対処し継続的なパートナーシップを築く医療サービスです。具体的には、病気の予防、健康の維持、急な病気の対応など、患者との信頼関係を築き長期的な健康管理を行うことを目的とされています。

出西地区に、頼れる医院が新たに誕生したことは地域にとって心強いことです。

新川中央線沿いの、医院の向かい側に、出雲市小山町から移転が決まった、出雲児童相談所の工事も進められています(工事期間は令和7年9月から令和9年1月の予定)。



3月5日開院のたばら医院

小学校6年生の皆さん 卒業おめでとうございます!

2月28日(土)、3月1日(日)出西コミュニティセンター集会所を会場に、小学校卒業プレゼント贈呈事業(主催:出西地区社会福祉協議会)が開催され、参加者一人ひとりにプレゼントが手渡されました。

当日は、3月に卒業する児童の皆さんがコミュニティセンターに來館し、サイコロころがしゲームに参加されました。

なお、当日参加できなかった児童の皆さんには地区の社会福祉協議会理事や自治会を通じて、ご自宅にお届けします。



サイコロころがしゲーム



参加者にプレゼントが手渡されました。

第21回出西歴史講座

出雲五色天神の今と昔を学ぶ

2月22日(日)出西コミュニティセンター集会所において、第21回出西歴史講座が開催されました(主催:出西コミュニティセンター総務部)。参加者は、出雲五色天神の歴史について、講師の青木誠さんから詳しくお話を聞きました。

天神さまとして親しまれているのは、菅原道真公(西暦845年~903年)です。道真公の没後、都に異変や災害が相次いだため、祈りを捧げたのが天神信仰の始まりとなりました。やがて、各地に天満宮が作られ天神信仰が広まり、学問・受験の神として祀られるなど、神としての姿は徐々に変化、発展していき、天神人形は、学問の神、子どもを守る神として伝わって行きました。

出雲地方に伝わる天神人形は、今では石膏などで作られた顔に衣装を着せた「衣装天神」が一般的ですが、江戸時代後期から明治・大正期にかけては、顔も衣装も土で作られた「泥天神」が飾られていました。1800年頃、松平不昧が藩主だった時に、泥天神が作られ始めたと言われていました。つやのある真っ白な肌、ほっそりした顔に長い首、切れ長の目が特徴で、全国的にも特に美しく、品格があると言われていました。

昭和45(1970)年に、今市の旧家の改築の際に

土中から土天神の型が見つかり、岸本正義出雲民藝館会長(当時)の声かけで多々納三保子さんらによって「出西でこや連」が結成。昭和46(1970)年の夏から五色天神を作り始められました。染色家で民芸家の金津滋さんに相談、「仁義礼智信」を「黒青白赤緑」の五色で表し「五色天神」と名付け、6人で家事の合間に手作業で作られました。その後、平成11(1999)年に人形づくりが途絶えました。

令和元(2019)年、退職公務員連盟の地域貢献活動の一環として五色天神再復活へ始動され、出西で制作研修会、出西コミュニティセンターで制作を開始されました。令和2(2020)年9月から第二期制作活動、令和3(2021)年10月18日に五色天神工房を開所。現在20人のメンバーで制作され、子どもたちに関心を持ってもらえるよう彩色体験教室を各コミセンで行ってられます。

青木さんは、「出雲五色天神に関わってきたものとして、地域に残る伝承を大切に、次の世代の子どもたちにぜひ引き継いで行きたい。地元の大切なものを絶やさないよう続けて行って欲しい」と結ばれました。



講師の青木誠さん

協賛事業の紹介

出西地区社会福祉協議会 総合支援事業

「綿貫ゆかさんと歌いましょう」 ~地域の高齢者との交流会~

12月12日(金)、出西コミュニティセンター集会所で、出西地区社会福祉協議会総合支援事業「地域の高齢者との交流会」が開催され、約50人の参加でにぎわいました。斐伊川町身障者協会出西支部(永戸富夫代表)主催。

この交流会は、年1回開催され、今年度は、地域で活躍の演歌歌手、綿貫ゆかさんを囲んで楽しく交流を深められました。

第1部の健康歌謡教室では、綿貫さんの指導に



講師の綿貫ゆかさん

よる、お口の体操や脳トレ(頭の体操)、「幸せなら手をたたこう」など音楽に合わせて一緒に歌い手足を動かしました。参加者は、綿貫さんの元気な姿に引き込まれ、笑顔の花が咲きました。

第2部では、ミニコンサートが始まりドレス姿の綿貫さんのすてきな歌声に会場は大いに盛り上がりました。

ミニコンサートの後は、綿貫さんを囲んでの昼食会が行われ、参加者からは「楽しかったです。綿貫さんに元気をもらいました」などの感想がありました。



第2部ではドレスに着替えて登場!

民生委員を終えて

白根 富雄(下出西3)

定年退職後、NPO(非営利団体)の職員として斐川環境学習センターに勤務し始めた。その頃、民生委員を引き受けることになった。知識もなく、知り合いもいなかったが、「徐々に慣れる」との言葉と、NPOで了解してもらえたからだった。

月1回の定例会、いろいろな研修・講習会に参加させてもらったことで、言葉の意味や、どんなことをすればよいか少しずつ分かった気がした。

一人暮らしの高齢者宅への訪問を毎月1回行い若い頃から多少の面識がある方は、話の糸口が見つかり、何回か通ううち、身内の方と知り合え、最近の状況や連絡先を把握できる様になっていた。

長い間には、一人暮らしの方の変動があるが、最近はずっと子どもが定期的な帰省し、親の面倒を見ておられる。私の友人にも毎月実家に帰って来る人がいる。そういえば自分も若い時、一年余り東京にいた頃、毎月、母一人の実家に様子を見に帰っていたことを思い出す。

日々の活動では、子どもたちの通学時の見守りに出かけ交差点で何組かの通学班と挨拶を交わし、安全な横断を見守る。自分の体より大きなランドセルを背負って入学した子どもたちが、卒業する頃になると急に背が伸び、小生より高くなった子を何人見てきたことか。中学生になっても、挨拶を返してくれる子がおり嬉しいと思う。斐川全体での行事へも参加することがあった。思い出

リレーエッセイ

すのは斐川町での餅つき大会。一人暮らしの高齢者を対象に開催。参加者も多いが、お世話する人たちがたくさんおられ驚いた。米を蒸すことから始まり、杵と臼で餅つきを行い参加者の方が丸めていく。できた餅でボランティアの方が雑煮にし、振る舞われる。しかし高齢化で、この行事は残念ながら終了した。

出西地区も新しい家が生まれ、受け持つ戸数が増加し、民生委員の活動量も増えると思われる。近年退職年齢が上がり、民生委員も後継者が見つからないのが現状だ。どの程度自分が役立てたのか不明だが、たくさんの人と関わったのはよかったのだろう。

年を重ねると物忘れをすることもあがるが、若者男女を問わず、人と関わって笑顔でいたい。見守りサロンに出かけて行きたい。そのために、まずウォーキングに出発し、足腰を鍛えておこう。



子どもたちの通学時の見守りをしました。